

第12回富山県広域消防防災センター運営委員会 主な意見

日時：令和6年8月29日（木）13:30～15:00

場所：富山県防災危機管理センター5階 5-A

<主な意見>

- ・地震体験コーナーは体験者から壁面ガラス越しに屋外が見えるため没入感に欠ける。周りを囲んだり、映像を投影するなどのリアリティの向上が必要。
- ・子どもや女性、高齢者など来館者の属性に合わせて解説の仕方を変えるなどの工夫があっても良い。
- ・119番通報体験コーナーは体験者が何を話しても予め録音された回答が返ってくるが、海外ではスタッフがバックヤードで電話を取って臨機応変に返答するという運用をしているところもあり、非常にリアリティがある。
- ・東京消防庁では消防や救急の知りたい情報をいつでも、どこでも、手軽に入手できるように、公式アプリを活用し、情報発信をしている。四季防災館もそのようなアプリを作成してはどうか？
- ・東京消防庁の電子学習室というページではインターネット上で消火器の使い方や応急救護の仕方などを動画で学習することができる。
- ・実際の風景に災害の映像を重ねてそれで訓練や体験ができるARの方がVRよりリアルで使い勝手が良い。
- ・堺市総合防災センターの体験コースのフローチャートは、来館者の属性に合わせてお勧めの体験コースを選択でき、使い勝手が良いように思う。
- ・来館すると災害に備えるために防災グッズをそろえようという気持ちが高まるが、帰宅すると気持ちが冷めてしまう。館内で防災グッズの販売をできないか？
- ・中国の事例だが、防災グッズの展示はするが、販売はせず、ネットで購入してもらおうような仕組みにしているところがある。そこまで多くの売り上げがあるとは思えず、業者が見つからない可能性もあるので、ネット販売も1つの手段。
- ・防災袋を実際に作成してみるような体験コーナーがあっても良い。
- ・流水体験コーナーではもう少し長い距離を歩けたら良い。
- ・避難所運営の情報展示があると良い。
- ・災害発生の時系列が意識されていると良い。例えば地震が発生し、次に火災や津波が発生することなどが意識されていると次にどのような避難行動を取ればよいか一連の流れがわかり、理解が深まる。

<委員長意見>

- 体験を始める前のガイダンスや来館者の属性に合わせたコース設定等、ハードだけでなくソフト面のリニューアルも考えなくてはいけない。
- 来館前に防災や四季防災館について予習できるような事前学習のプログラムを考えてみたらどうか。
- 液状化や津波など新たなリスクに対する関心が高まっているので、これらへもしっかり対応していくことが必要。
- 防災グッズに関しては、実際に館内で使い方を試すことが出来たらよいと思う。
- 四季防災館では来館者1人1人に細やかに対応しているところが特徴であり、今後もその良いところを伸ばしていくことが重要。
- 来館した子どもが帰宅後、親に話をして親の学習にもつながるということもあるが、大人が参加しやすいプログラム等も考える必要がある。
- 実際に地域に赴き防災について講義するという方法もあるが、四季防災館でそれをすべてやるのは困難。消防署で教えてもらうとか、学校の授業の中で教えるなど、関係施設間の役割分担も必要。
- VRやARの活用は体験のリアリティを高めるという点で有効。